



五月の遠足とマリア祭



この4月は入園式などがあり、ばら組さんにとってはとても忙しい月でしたね。今こどもの日（連休中ですが）に向けて、「こいのぼり」の歌が幼稚園のあちこちから聞こえています。そうです、みんなの大好きな5月がやってくるのです。3年ぶりにマスクが取れて、思い切り深呼吸して過ごしてみたいですね。この5月には子どもの日があり、母の日があり、幼稚園では春の遠足（舎人公園）があり、マリア祭があります。そこで今日は「遠足」と「マリア祭」についてサレジオの意味を考えてみましょう。

まず、遠足についてですが、サレジオを作ったドン・ボスコは子どもと一緒に野原などに遠足（今で言うハイキング）に出かけることが大好きでした。そしてある時には少年刑務所（今で言う少年院）の少年たちを遠足に連れ出したいと当時の市長に談判しに行くほどでした。当然市長は渋りましたがドン・ボスコはあきらめず、「もし一人でも脱走する子がいたら自分が罰を受ける」という条件で、少年囚たちをハイキングに連れ出すことに成功し、皆大喜びで出掛け、一人残らず無事に少年刑務所に帰ってきたのです。これにはさすがの市長もびっくりし、ドン・ボスコの少年たちへの愛情とそれに応えた少年たちからの信頼を称賛したのでした。その後もドン・ボスコはオラトリオに通ってくる子どもたちをブラスバンド（音楽隊）と一緒にたびたび出掛けていました。遠足は子どもたちの心と体を解放し、自然の美しさ楽しさを感じ、神さまを讃えることができる素晴らしい方法だとドン・ボスコは考えたのでした。サレジオ幼稚園の「舎人公園」遠足でもこのことを考えて楽しんでほしいと思います。

次に「マリア祭」についてですが、ドン・ボスコは9歳の頃夢でマリア様と出会ってから、いつもマリア様に祈って、助けてもらっていました。神父になって間もなくドン・ボスコは大変なピンチに見舞われました。当時ドン・ボスコは日曜日ごとに子どもたちを集めては遊び、祈り、勉強を見てあげるなどの活動をしていましたが、たくさんの子どもの叫び声がうるさく、広場が荒らされることなどを理由に行く先々で出入り禁止になってしまいました。そしてとうとう次の日曜日には行くところが無くなり、途方に暮れて教会で「マリア様どうぞこの子どもたちが落ち着いて過ごせる場所を与えてください」と祈りを捧げ、子どもたちに「次の日曜日にはもう集まれる場所がないからお休みです」と言おうと教会を出た時です。ドン・ボスコの方に向かって一人の男がやってきたのです。「ドン・ボスコ、子どもたちが集まれる場所をお探しとか…。もしよければ私の古い納屋を使ってください」。その時のドン・ボスコの喜びと言ったらどんなだったでしょう。それからドン・ボスコはどんな事業を始めるにも「マリア様、一緒に始めましょう」と祈って、事業を始めるようになったとされています。このドン・ボスコのピンチを救ったピナルディという人の名前はそれからずっとサレジオの人々の中で忘れられることはないでしょう。私たちの足立サレジオ幼稚園も船津さんと言う方の寄付で始まったと言われています。5月24日は教会で「マリア様の祝日」になっていて、この日には世界中のサレジオで「マリア祭」が行われています。

4月28日 足立サレジオ幼稚園 園長 野口重光